

# 「あいさつ」「返事」に関するアンケート調査結果②

中札内村地域協働型学校づくり協議会（平成 31 年 2 月）

URL : <http://nakasatsucs2018.seesaa.net/>

中札内村コミュニティ・スクールでは、平成 30 年度から「あいさつ」「返事」をキーワードとした取組を進めてきた。昨年 7 月のアンケート調査に引き続き、今回は取組の経過を把握することを目的に実施した。

## 【調査対象】

村内小中学校の児童生徒（4 年生以上）、教職員、保護者、地域住民

## 【調査時期】

平成 30 年 12 月 4 日～平成 31 年 1 月 17 日

## 【回答数・内訳】

- ・児童生徒 197 人（男 90 人、女 106 人、不明 1 人）※児童 107 人（男 51 人、女 55 人、不明 1 人）、生徒 90 人（男 39 人、女 51 人）
- ・教職員 44 人（男 21 人、女 23 人）※小学校 29 人（男 12 人、女 17 人）、中学校 15 人（男 9 人、女 6 人）
- ・保護者 125 人（男 45 人、女 79 人、1 人）※児童保護者 87 人（男 33、女 53 人、1 人）、生徒保護者 38 人（男 12 人、女 26 人）
- ・地域住民 175 人（男 54 人、女 107 人、不明 14 人）※20 代以下 2 人、30 代 11 人、40 代 6 人、50 代 7 人、60 代以上 114 人、不明 5 人

## 調査結果 1 回答者（保護者、地域住民）のプロフィール

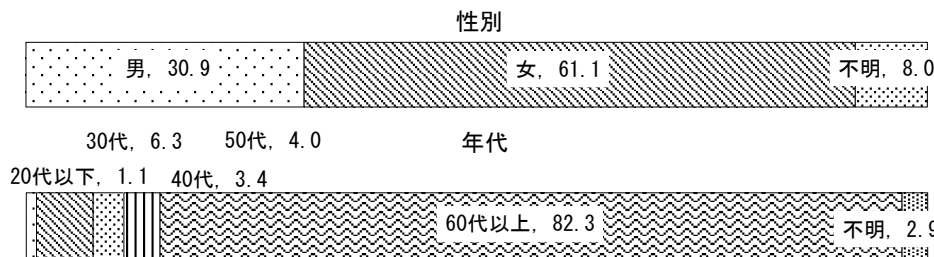
保護者、地域住民の回答者は女性が多く、特に地域住民の年代は、約 8 割が 60 代以上である。

### ◆ 保護者（全体）の性別



7 月よりも回答者は 33 名多く、男性の割合は約 5%増えている。（前回の男性割合 31.1%）

### ◆ 地域住民の性別と年代



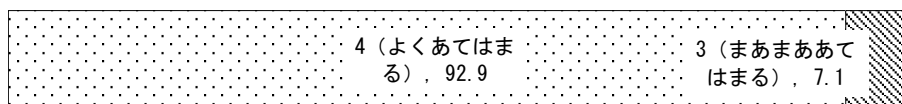
7 月よりも 60 代未満の回答者は 15 人増えたが、60 代以上の回答者数がそれを上回ったため、割合は減少した。

## 調査結果 2 前回より「あいさつ」や「返事」は大事だと思っている

7 月よりも児童生徒の多くは「あいさつ」や「返事」は大事なことだと思っている。特に中学生の意識は高い状況にある。

### ◆ 「あいさつ」や「返事」がしっかりできることは大事なことだと思う。

児童・生徒（全体）

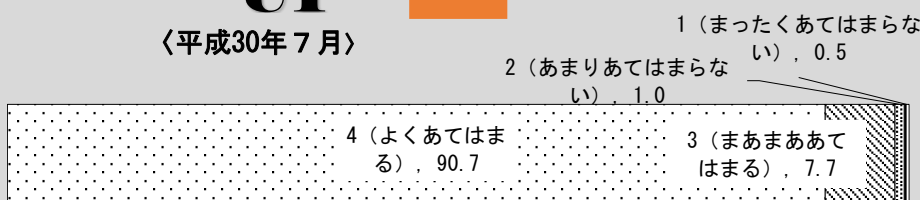


7 月と比べて、「よくあてはまる」割合は 2.2%増加し、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」は 0%となった。

【生徒】（中学生）  
「よくあてはまる」96.7%  
【児童】（小学生）  
「よくあてはまる」89.7%

UP

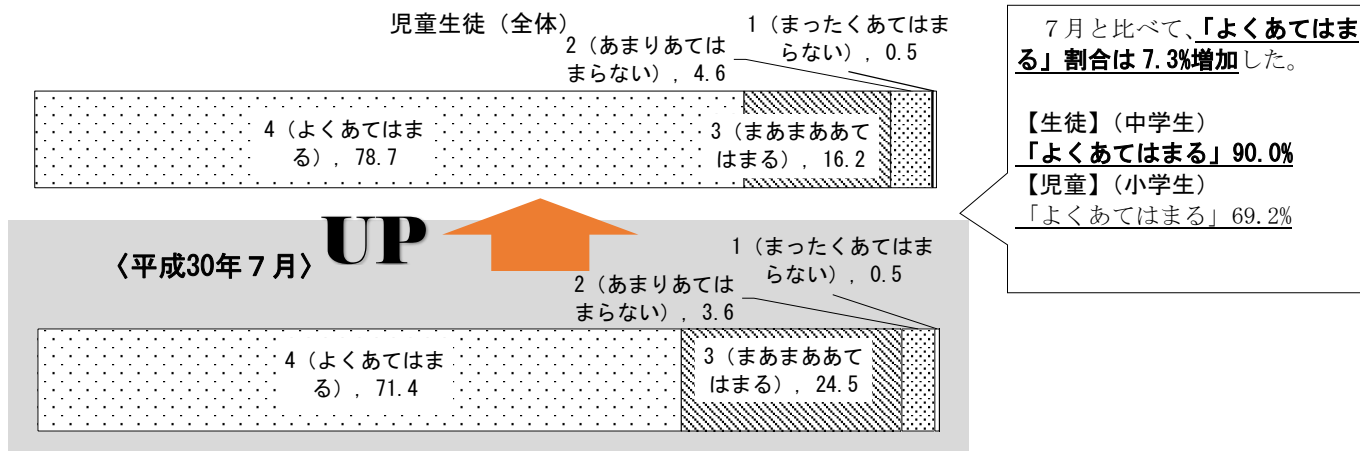
〈平成30年 7 月〉



## 調査結果3 前回より「将来に役立つ」と思っている

7月よりも児童生徒の多くは、「あいさつ」や「返事」がしっかりできることは自分の将来に役立つと思っている。特に中学生の意識は高い状況にある。

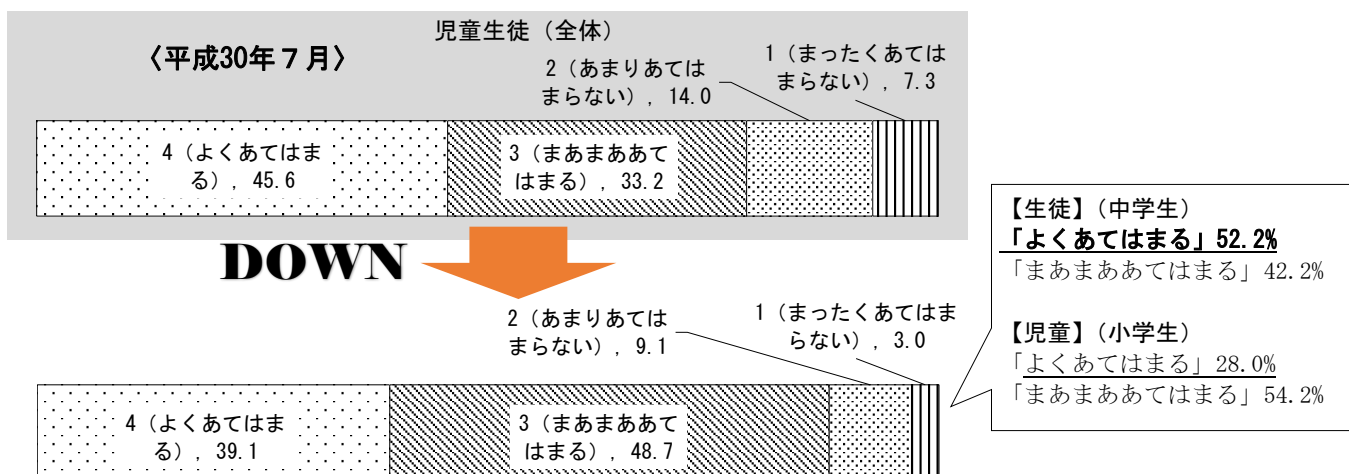
◆ しっかりと「あいさつ」や「返事」ができれば、自分の将来に役に立つと思う。



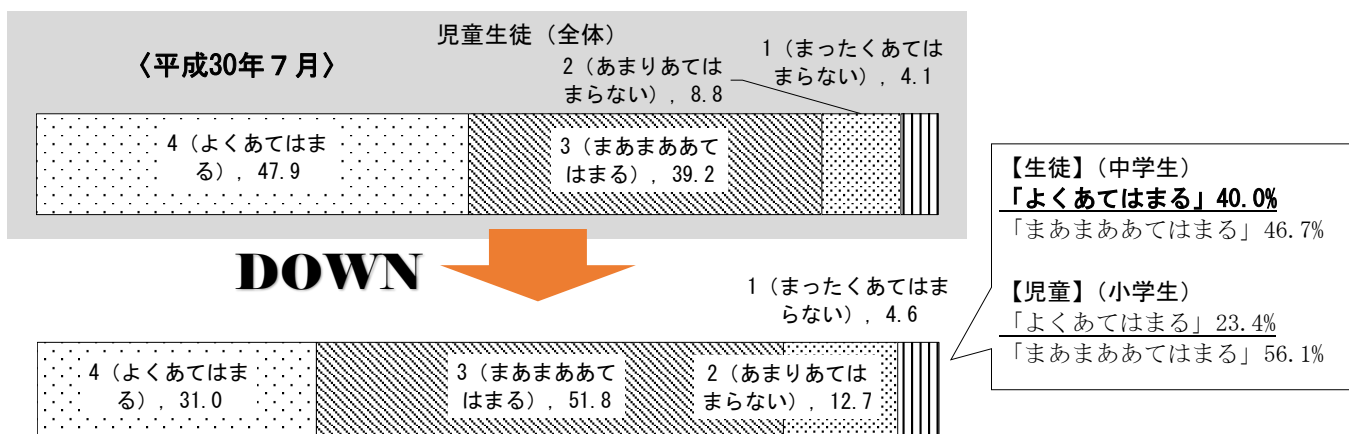
## 調査結果4 意識の高まりを行動へつなげていくことが課題

7月よりも児童生徒は、「学校の友だちには、あいさつや返事をきちんとしている人が多いと思う」「上手にあいさつや返事ができるように自分たちで取り組んでみたいと思う」ことが少なくなっている。結果2、3のとおり、児童生徒の「あいさつ」や「返事」に対する意識は高くなっていることから、実際の行動につなげていけるように支援することによって、より良い「あいさつ」や「返事」の広がりが期待できる。

◆ 学校の友だちには、「あいさつ」や「返事」をきちんとしている人が多いと思う。



◆ 上手に「あいさつ」や「返事」ができるように自分たちで取り組んでみたいと思う。

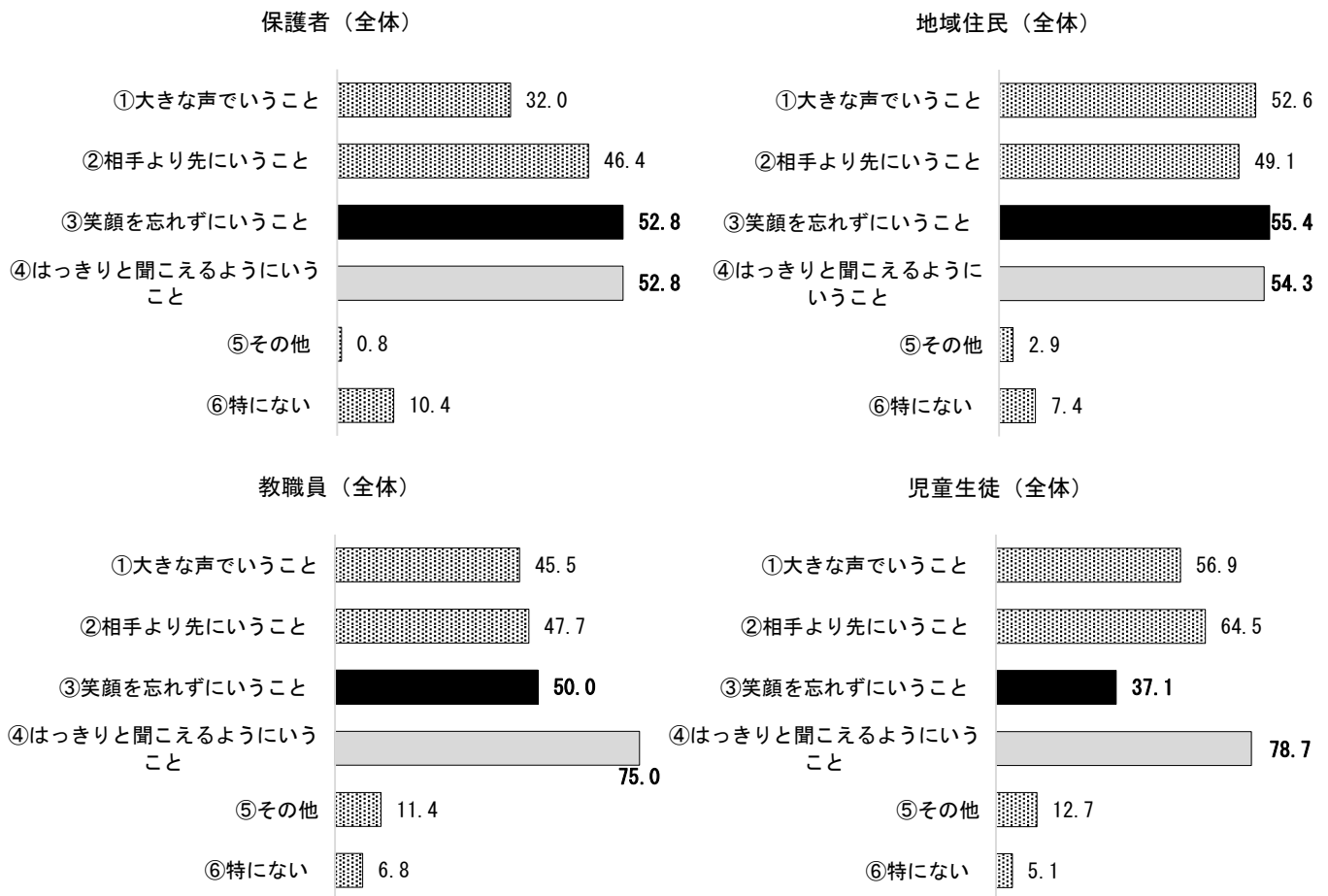


## 調査結果 5

### 保護者や地域の大人は「はっきり」と「笑顔」を意識している

児童生徒に比べて保護者や地域の大人、教職員は「はっきり聞こえるようにいうこと」「笑顔を忘れずにいうこと」に気を付けながら「あいさつ」している。また「その他」として多かった回答は「相手の顔を見ていうこと」「相手の目を見ていうこと」だった。

◆ 「あいさつ」や「返事」をする時、気を付けていること。

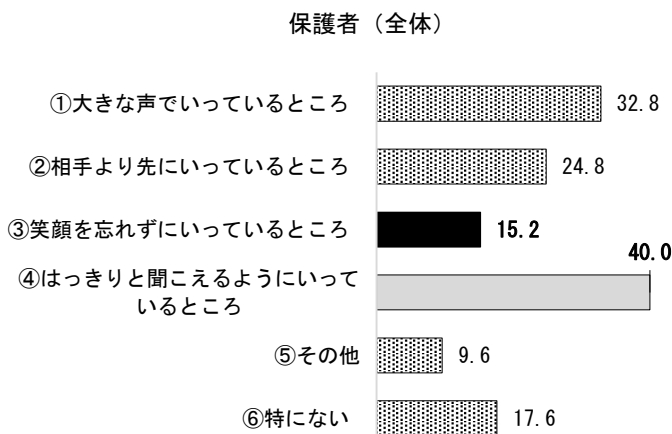


## 調査結果 6

### 「はっきりと聞こえるように…」は身に付いてきた

保護者や地域の大人、教職員は、児童生徒が「はっきり聞こえるように」挨拶や返事をしていると評価している。しかし7月の調査で保護者の「自分の子どもにもっとできるようになって欲しいところ」として最も高かった「笑顔を忘れずにいうこと」(43.5%)については、子どもたちに定着していない状況である。

◆ 自分の子どもの「あいさつ」や「返事」で良いと思うところ。



#### 【地域住民】(全体)

「近所の子どものあいさつや返事で良いと思うところ。」

- ①大きな声でいっているところ 56.6%
- ②相手よりも先にいっているところ 40.0%
- ③笑顔を忘れずにいっているところ 38.9%
- ④はっきり聞こえるようにいっているところ 50.3%**
- ⑤その他 3.4%
- ⑥特にない 7.4%

#### 【教職員】(全体)

「児童生徒のあいさつや返事で良いと思うところ。」

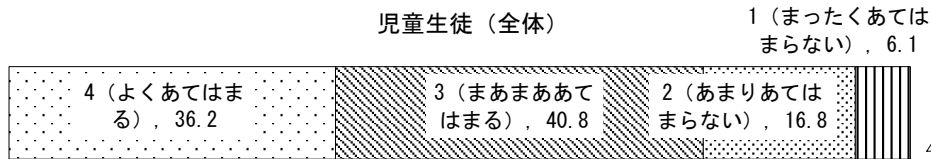
- ①大きな声でいっているところ 31.8%
- ②相手よりも先にいっているところ 43.2%
- ③笑顔を忘れずにいっているところ 18.2%
- ④はっきり聞こえるようにいっているところ 40.9%**
- ⑤その他 22.7%
- ⑥特にない 6.8%

## 調査結果 8

### 大人と子どもが挨拶を交わす機会を増やしたい！

今年度から「あいさつ」「返事」の取組の一つとして「歩いてつながる心の輪」を実施し、日常的にウォーキングをしている住民の方々に登下校の時間帯に通学路をコースとしてもらい、児童生徒と挨拶を交わしてもらうよう協力を呼びかけている。今回のアンケート調査では7月の結果と大きく変わらなかったが、こうした機会が増えていくことを期待したい。

- ◆ 地域（近所）の人たちと「あいさつ」をすることが多い。

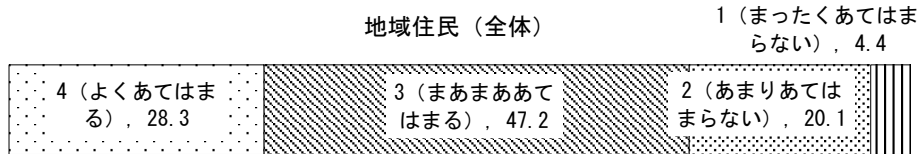


平成 31 年度末までに「よくあてはまる」「まあまああてはまる」の割合を児童生徒、地域住民ともに 90%以上にした。

#### 7月の結果

【児童生徒】（全体） 82.5%  
【地域住民】（全体） 76.4%

- ◆ 近所の子もたちと「あいさつ」をすることが多い。

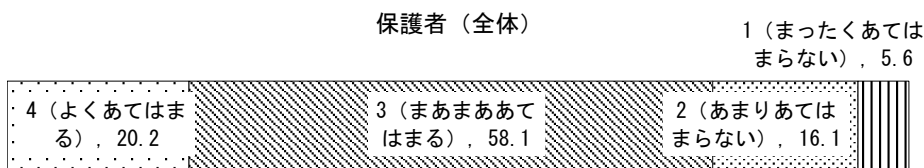


## 調査結果 9

### 大人が子どもの手本となる意識を広めたい！

「あいさつ」「返事」の取組の一つとして「川柳・標語コンテスト」を実施し、大人が率先してより良い「あいさつ」や「返事」を行うことができるよう啓発している。しかし今回のアンケート調査では7月の結果を比べて「よくあてはまる」「まあまああてはまる」の割合が減ったことから、取組方法等の工夫が必要である。

- ◆ 「あいさつ」や「返事」では、子どもたちの手本になることを意識している。

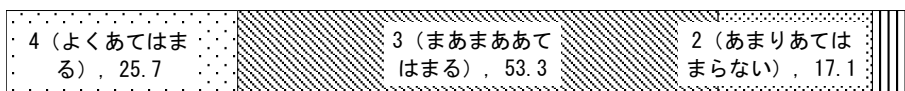


平成 31 年度末までに「よくあてはまる」「まあまああてはまる」の割合を保護者 95%、地域住民 90%以上にした。

#### 7月の結果

【保護者】（全体） 93.5%  
【地域住民】（全体） 84.8%

地域住民（全体）

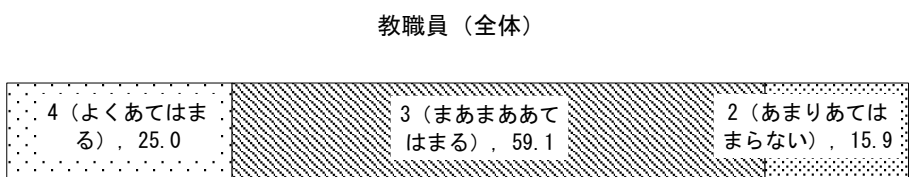


## 調査結果 10

### 「あいさつ」などについて話題にする機会を増やしたい！

「川柳・標語コンテスト」では、この取組をきっかけに家庭や地域で、より良い「あいさつ」や「返事」について考えたり、話し合ったりする機会を増やすことをねらいとしています。しかし今回のアンケート調査では7月の結果を比べて「よくあてはまる」「まあまああてはまる」の割合が減ったことから、取組方法等の工夫が必要である。

- ◆ 「あいさつ」や「返事」では、子どもたちの手本になることを意識している。

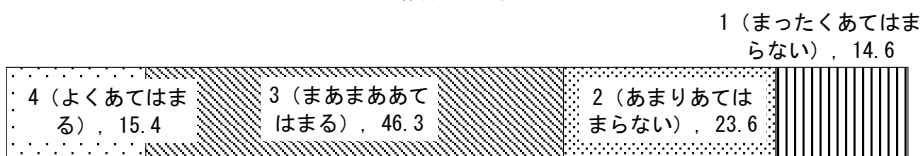


平成 31 年度末までに「よくあてはまる」「まあまああてはまる」の割合を教職員、保護者ともに 90%以上にした。

#### 7月の結果

【教職員】（全体） 86.3%  
【保護者】（全体） 85.4%

保護者（全体）



「よくあてはまる」「まあまああてはまる」割合

【教職員】（中学校） 100.0%  
【教職員】（小学校） 75.9%  
【保護者】（中学校） 51.3%  
【保護者】（小学校） 66.2%